

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 26日は、低気圧が東シナ海で発生する。低気圧からのびる前線が西日本の南海上にのびる。
- 27日は、本州の南を低気圧が進む。低気圧からのびる前線が東日本の南岸及び東シナ海にのびる。
- 28日は、日本の南海上に前線が停滞する。
- 29日は、大陸から東シナ海に前線がのびる。
- 30日は、高気圧が日本海北部に進む一方、東シナ海には低気圧が進み西日本の南へ前線がのびる。

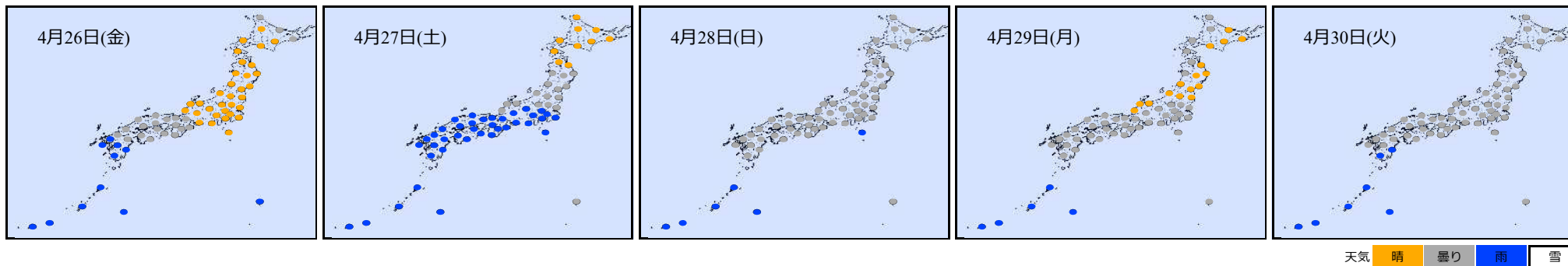
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 気温は平年より高い日が多く、かなり高くなる所もある。積雪の多い所ではなだれ等に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

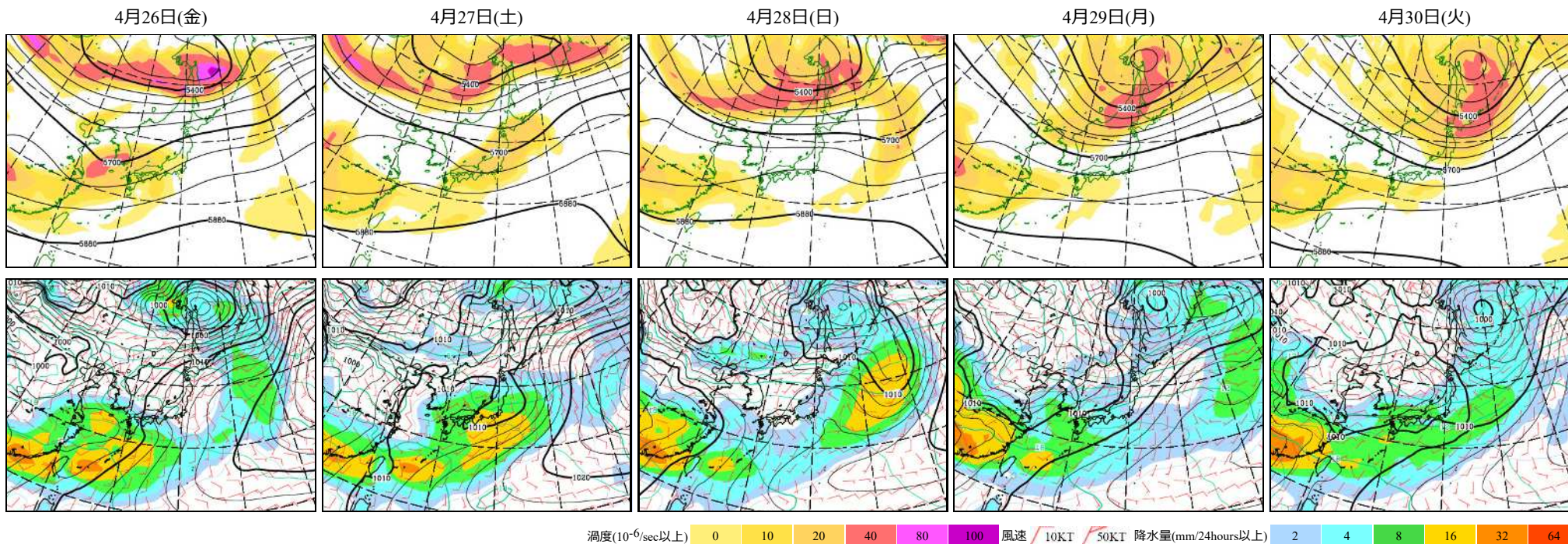
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

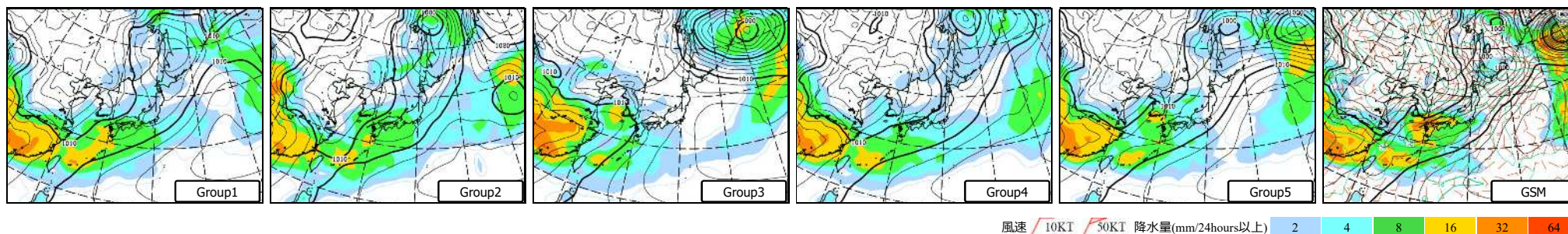


- 北日本では、晴れや曇りの日が多い。
- 東日本では、26日は晴れるが、その後は曇る日が多く27日は雨の所が多い。
- 西日本と沖縄・奄美では曇りや雨の日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月29日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 期間の後半は、各モデル間のバラつきが大きい。
- 29日の日本付近の気圧配置は、本州付近が気圧の谷の表現のあるものと東北地方に気圧の尾根が見られるものがあり大きくばらついている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 28日まではおおむね最新のENSを基に予報を考える。その後は海外モデルを参考に降水域を割り引いた。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。